

大阪ガス IR 部長松井です。

本日は、お忙しいところ、当社の2024年3月期第3四半期決算の説明会にご参加いただきありがとうございます。

また平素は、当社事業につきご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

それではただ今より、2024年3月期第3四半期決算について当社ホームページで開示しておりますプレゼンテーション資料に沿って、説明させていただきます。

3ページをご覧ください。

I. 24.3期 第3四半期決算と見直し修正の概要

■ P3 24.3期 第3四半期決算のポイント

- 3ページは、第3四半期決算のポイントです。
- 売上高は、国内エネルギー事業での LNG 販売価格の下落や、ガス販売量の減少などにより、前年同期に比べて863億円減収の、1兆5,101億円となりました。
- 経常利益は、タイムラグ差損益の改善や、フリーポート LNG 液化基地が運転再開し、LNG 調達費用を抑えられたことなどにより、前年同期に比べて1,813億円増益の1,745億円となりました。
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、前年同期に比べて1,278億円増益の1,264億円となりました。
- なお、10月に公表した自己株式の取得状況は、取得額の上限200億円に対し、12月末時点で107億円（進捗率は約54%）となっています。

■ P4 24.3期 第3四半期決算の対前年実績比較

- 4ページでは、経常利益の前年同期との差異理由をセグメント別に分解して、ご説明します。
- 【国内エネルギー事業】は、タイムラグ差損益の改善や、フリーポート LNG 液化基地の運転再開などにより、前年同期より1,612億円の増益となりました。
- 【海外エネルギー事業】は、米国とオーストラリアの上流事業が減益となりましたが、北米 IPP 事業の増益やフリーポート LNG 液化基地の運転再開による増益があり、概ね前年同期並みとなりました。
- 【ライフ&ビジネス ソリューション事業】は、都市開発事業の増益などにより、37億円の増益となりました。

■ P5 24.3期 見直し修正について

- 5ページでは、今回実施した、通期見直しの修正についてご説明します。
- 24.3期通期の売上高は、LNG の販売収益の増加などを織り込み、10月に公表した前回見直しを260億円上回る、2兆1,210億円に変更します。
- また経常利益は、為替差益などにより営業外収益が増加したことなどを織り込み、前回見直しを110億円上回る、1,700億円に変更します。
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、第4四半期に特別損失などを計上する見込みであるため、前回見直しを据え置いています。

■ P6 24.3 期 見通しの対前回見通し比較

- 6 ページでは、今回修正した通期見通しの、前回見通しとの比較について、ご説明します。
- 経常利益 110 億円の上方修正の内訳として、
【国内エネルギー事業】は、電力調達価格の低下などにより、25 億円の増益を見込んでいます。
- 【海外エネルギー事業】では、前回見通しからの市況の変化を反映し、米国やオーストラリアの上流事業の減益および、北米 IPP 事業の増益などを織り込みましたが、海外エネルギー事業のセグメント利益は 720 億円に変更ありません。
- 【ライフ&ビジネス ソリューション事業】は、概ね計画通りに進捗していることから、前回見通しを据え置いています。
- 【その他】では、営業外損益として原料調達に伴う為替差益や、政策保有株式の売却益などを織り込み、85 億円の増益を見込んでいます。

■ P7 24.3 期 見通しの対前年実績比較のポイント

- 続いて 7 ページは通期見通しのポイントです。
- 通期の売上高は、国内エネルギー事業での LNG 販売価格の下落や、ガス販売量の減少等により、前年同期に比べて減収となる見通しです。
- 経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は、フリーポート LNG 液化基地の運転再開や、タイムラグ差損益の改善などの影響により、前年同期に比べて増益となる見通しです。

■ P8 24.3 期 見通しの対前年実績比較

- 8 ページでは、24 年 3 月期見通しと前年同期実績の経常利益の差異理由を、セグメント別に分解してご説明します。
- 今回は見通しを修正していますが、各セグメントの主要な増減益要因は前回見通しから変更はありません。
- 【国内エネルギー事業】は、フリーポート LNG 液化基地の運転再開やタイムラグ差損益の改善などで前年同期より、923 億円の増益を見込んでいます。
- 【海外エネルギー事業】は、フリーポート運転再開などにより、前年同期より、22 億円増益に、
【ライフ&ビジネス ソリューション事業】は、前年同期の業績好調の反動により、17 億円の減益となる見込みです。
- これらをふまえ、連結経常利益は前年同期より 943 億円増益の 1,700 億円と想定しています。

■ P9 成長投資の実績と見通し

- 9 ページは成長投資と財務健全性を示しています。
- 第 3 四半期までに、1,202 億円の成長投資を行いました。
【国内エネルギー事業】では発電所など、
【海外エネルギー事業】では北米上流事業の開発など、
【ライフ&ビジネス ソリューション事業】では都市開発事業などに対して、主に投資しました。
- 財務健全性については、“発行済ハイブリッド社債の資本性”50%を調整した数値で、自己資本比率が 54.4%と中期経営計画で示す水準を上回っています。

注意事項：

本書に記載される情報は、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。